

- 1 主題名 情報モラルと友情
内容項目B（8）友情、信頼
- 2 教材名 「ゴール」（「新しい道徳2」東京書籍）

3 主題設定の理由

(1) 教材観

本教材は、バスケットボール部に所属する5人が、すれ違ってしまった人間関係を埋めるために話し合い、互いに誤解があったことに気付く。そのことを通して、互いの立場について考えることの重要性や真の友情とは何かについて考えさせる教材である。本教材を通して、友情を深めるためには意思の疎通をしっかりととり、お互いを信頼することが大切であることに気付かせ、友情を深めようとする態度を育てていきたい。

(2) 生徒の実態

実態調査（＊月＊日 ＊人実施）

- | | |
|---|--|
| 1 | あなたは、様々な友だちと関わろうとしていますか？
とてもそう思う＊人 どちらかといえばそう思う＊人 あまりそう思わない＊人 思わない＊人 |
| 2 | 1の質問でそのように答えた理由を教えてください。（自由記述）
「とてもそう思う」と答えた人の回答
<ul style="list-style-type: none"> ・様々な人と関わることでコミュニケーションが生まれるから ・みんなと仲良くしたいから ・たくさん友だちがいた方が楽しいから 「どちらかといえばそう思う」と答えた人の回答
<ul style="list-style-type: none"> ・みんなと仲良くしないといけないから ・大体の人とは話そうとしているから ・困ったときに助けてくれるから 「あまりそう思わない」と答えた人の回答
<ul style="list-style-type: none"> ・好きなものが同じ人がいればいいから ・仲良くなっても裏切られたりしたから ・人といることが得意ではないから ・多分気が合わないから |
| 3 | あなたにとって、信頼できる友達とはどんな友達ですか？
<ul style="list-style-type: none"> ・嘘をつかない人 ・相談に乗ってくれる人 ・秘密を守ってくれる人 ・助けてくれる人 ・自分の意見をきちんと言ってくれる人 ・感情を共感してくれる人 |
| 4 | 友達との関係が悪くなってしまったことはありますか？
ある＊人 どちらかといえばある＊人 どちらかといえばない＊人 ない＊人 |
| 5 | 友達との関係が悪くなったとき、自分の考えや意見を相手に伝えることは難しいですか？
思う＊人 どちらかといえば思う＊人 どちらかといえば思わない＊人 思わない＊人 |

実態調査から、約8割の生徒が様々な友だちと関わろうとしている。その理由には、「様々な人と関わることでコミュニケーションが生まれる」や「みんなと仲良くしたいから」「大体の人とは話そうとしているから」などがあげられる。一方で、あまりそう思わないと回答した生徒の理由は、「好きなものが同じ人がいればいいから」や「多分気が合わないから」など、自分を理解してくれている人だけで満足し、それ以外の人とは積極的に関わろうと思わないと考える生徒も見られた。また、信頼できる友達の定義が自分のなかであるものの、友達との関係が悪くなったときに、自分の考えや意見を相手に伝えることが難しいと感じている生徒が多いことが分かった。このことから、友達と関わることに前向きであるが、何か出来事があったときに、自分の意見や考えを相手に伝えることの難しさを感じている生徒が多いことも分かった。

(3) 指導観

- ① 友情を深めるために大切なことは何なのかを考え、多様な意見に触れることができるようにロイロノートを使って意見交流させる。
- ② 生徒が教材の内容と自分の生活を結びつけて考えやすくするために、アンケート結果を導入で提示し、関心を高める。
- ③ 生徒の考えを深めるために、条件を変える補助発問を行う。

4 本時の指導

(1) ねらい

登場人物5人のそれぞれの思いや考え方を考える活動を通して、友情を深めるために大切なことについて考え、互いを信頼できるような関係性を築こうとする態度を育てる。

(2) 主題に迫るためのキャリア教育の視点

本主題は、複数の内容項目を関連付けて扱っており、内容項目のB(8)「友情、信頼」は、基礎的・汎用的能力の「人間関係形成・社会形成能力」と、B(9)「相互理解、寛容」は、「課題対応能力」との関わりが深い。本授業を通じて、友情の尊さを理解し、互いに励まし合ったり、高め合ったりして人間関係を深めるために大切なことを考えることで、キャリア形成につなげることができると考えられる。価値観や考え方の違いが人それぞれある中で、友情を深めるために大切なことは何か、グループの仲間と議論することを通して、ねらいとする道徳的価値に気付くようにする。

(3) 展開

	主な活動と発問 (○基本発問 ◎中心発問) ・予想される生徒の反応	・指導上の留意点 ◎評価 ☆キャリア教育の視点
導入	1 これまでの自分を見つめる。 アンケート結果の前半をみて、お互いの友達に対するイメージを確認し合う。 ・積極的に関わっている。 ・自分と関われそうな人を選んで、関わっている。 ・傷付きたくないから狭いコミュニティで過ごす。	・アンケート結果のうち、特に「友達との関わり方の違い」に注目させ、現時点での自分の考えや感じていることを整理する。
展開	2 本時の課題を確認する。 友情を深めるために大切なことは何だろう。 3 教材「ゴール」を読み、話し合う。 ○ 5人に足りなかったものは何だろう。 ・コミュニケーションが取れていない。 ・話し合うこと。 ・相手の立場に立って考えること。 ・想像力。 ・思いやり。 ○ リカの弟のことを聞いて、ほかの4人はそれぞれどのようなことを考えただろう。 ①ロイロノートに自分の考えを書く。 ・本当は、リカに私たちが頼ってほしかった。 ・リカは、打ち明けたくてもできなかったのかもしれない。 ・何も知らなかったとはいえ、ひどいことをした。 ・申し訳ない気持ちになる。 ②隣の人と意見交換をする。 ③それぞれの意見を全体で共有する。	・悩みや葛藤、そしてどのようにして共に乗り越えたかについて自分事として考えることができるよう、実際に似たような経験をしたことがないか問いかける。 ・4人が考えたことをそれぞれの立場で書き込むことで、誤解が生じた原因を多面的に考えることができるようにする。 ・リカにも問題があったのではないかとこの補助発問を投げかけることで、この経緯に至るまでの、リカと友達の関係性に希薄さや想像力が欠けていたことについて考えるようにする。 ☆人それぞれ、価値観や考え方に違いがあることに気付かせ、そのうえで相互理解することの意味や寛容の心の必要性を考えられるようにする。 ＜課題対応能力＞

	○ 反省会をしたことで、何に気付いただろう？ ・誤解していたことに気付いた。 ・思い込んで話を進めていた自分に気付けた。 ・自分の思いや考えは伝えないと、他の人には伝わらないと分かった。 ◎ 友達とよりよい人間関係を築き、友情を深めるためには、どのような行動や気持ちが必要なのかを考えよう。 ・自分の考えをもって、友達に伝えることがまず必要だと分かった。 ・自分のことも大切にしてもらえるように、相手も大切にすることが必要だと思った。 ・思いやりをもつこと。 ・自分の思いと、相手の思いが一緒だろうと思って行動するのではなく、声をかけたりして確認することが信頼につながると思う。	・それぞれの感情の行き違いによってもたらされた友達関係の亀裂について振り返ることで、悩みや葛藤も経験しながら培われていく真の友情について考えるようにする。 ・アンケート結果の後半を提示し、友達の考えに触れることで、自分の考えを深めるきっかけとする。 ・ロイロノートを用いてグループの友達と考えを共有し合いながら、自分の考えを整理・表現する。 ☆信頼を基盤として成り立つ友情が、生きていく上で大切であることに気付くようにする。 ＜人間関係形成・社会形成能力＞ ◎話合いを通して、友達とよりよい人間関係を築き、友情を深めるためには何が大切かを考えることができる。 【ロイロノート、ワークシート】
終末	4 教師の説話を聞く。 ・友情を深めていくには、お互いの信頼関係を築いていくことが大切なんだな。	・友達とのよりよい関係づくりを現在も問い続けている担任の説話を聞くことで、自己の生き方について具体的に考えられるようにする。